



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は7回目)でレポートする。



「まさか福祉の仕事をするとは思っていませんでした」と、あさひ館で寝たきりの人の介護をする管さん。今や「建設業の街」から「福祉の街」になりつつある山谷地域には、管さんのような介護ヘルパーが重要な役割を担うようになる



山谷に住む人の中からヘルパーを養成し、山谷に住む仲間を介護する

特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会

山山介護支援事業(東京都)

「やればできるんだなということがわかりました。今はとても楽しいです。仕事があるから」

病気やケガなどで仕事ができず生活保護を受けている人、身寄りがいないためどこかの施設や病院にいる人、路上で生活している人など約1万2〜3千人がいるという。

日本の三大ドヤ(簡易宿泊所街の一つ、東京・山谷地区でホームヘルパーとして働いている管鏡男さん(54)だ

「今、約5千人の人が簡易宿泊所暮らしをしています。平均年齢は56〜57歳。10年経てばほとんどの人が65歳以上になる。この地域にも福祉的なニーズと要介護保険の対象者がどつと増えるわけです。偏見などがあつて介護事業者の進出もほとんどありません。本来なら在宅介護が望ましいのに家族がいらないために入院せざるを得ない寝たきりの人たちに安心を保証し、一元ホームレスのヘルパーが応援する。この地域の人たちの健康を考えるとき、メンタルの面からも就労することは、たいへん重要です。働かないと、社会からも遮断され、健康からも遠ざかってし

「ふるさと」の存在を知る。ふるさとの会は、山谷に住む人の中からヘルパーを養成し、仲間である山谷の人を介護する「山山介護支援事業」というプロジェクトを立ち上げていた。メンバーからヘルパーに勧められて、管さんは2年前に2級ヘルパーの資格を取得。ふるさとの会の職員として訪問介護に飛び回っている。

「今、約5千人の人が簡易宿泊所暮らしをしています。平均年齢は56〜57歳。10年経てばほとんどの人が65歳以上になる。この地域にも福祉的なニーズと要介護保険の対象者がどつと増えるわけです。偏見などがあつて介護事業者の進出もほとんどありません。本来なら在宅介護が望ましいのに家族がいらないために入院せざるを得ない寝たきりの人たちに安心を保証し、一元ホームレスのヘルパーが応援する。この地域の人たちの健康を考えるとき、メンタルの面からも就労することは、たいへん重要です。働かないと、社会からも遮断され、健康からも遠ざかってし

山谷地区には、現在、日雇い労働者

も遮断され、健康からも遠ざかってし



「路上生活を脱却できる道を見つかる場所になるようにしたい」と、山山介護支援事業について語る水田さん

まう。仕事ができない方にとつても、仲間が介護してくれるのは、気持ちよく伝わるので、安心できるようです」と、この試みについて語る。

現在、会が運営する「ふるさとあさひ館」(台東区千束)1階には介護保険認定を受けた一人暮らしの高齢者が10人、2階にはヘルパー2級取得・就労自立などをめざす元野宿生活者が管さんらと入居している。これまで9人がヘルパー2級の資格を取得し、併設の訪問ヘルパーステーションを通じてあさひ館の利用者と地域の人たちの介護を行っている。

「僕は、ホームレス問題の解決を地域再生と街づくりに結びつけていこうと考えています。この事業はその一環なんです」と、水田さんは強調する。

子供たちがのびやかに共同生活体験合宿、しなやかな心と自立の精神を育む

特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

不登校の子とも達のための六浦共同生活舎生活体験合宿(神奈川県)